

令和4年度 支部事務局事業実績

日本赤十字社沖縄県支部

支 部 事 業 (日本赤十字社沖縄県支部)

1. 会員制度の普及促進と財政基盤の強化
2. 災害救護事業の強化
3. 国際救援活動の推進
4. 赤十字奉仕団の活動強化
5. 青少年赤十字（JRC）の拡充
6. 講習普及事業の推進
7. 職員の資質向上のための研修の充実
8. 赤十字各施設間の連携強化
9. 有功会、評議員に関する取組み

その他管内の事業

1. 医療事業（沖縄赤十字病院）
2. 血液事業（沖縄県赤十字血液センター）
3. 社会福祉事業（日赤安謝福祉複合施設）

支部事業

1. 会員制度の普及促進と財政基盤の強化

日本赤十字社沖縄県支部の活動の財源は、協力会員・会員が納める会費によって賄われており、地区分区や赤十字奉仕団等の協力が必要不可欠である。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、一部活動内容を変更しながら、赤十字思想の普及及び会員増強に取り組んだ。

(1) 活動資金募集実績

	令和4年度（3月末）	令和3年度（3月末）
目標額	143,000,000円	143,000,000円
実績額	134,940,738円	128,082,516円
達成率	94.4%	89.6%

(2) 赤十字思想の普及及び会員増強

ア 協力会員・会員の加入促進

赤十字有功章等の受章者の増強

イ 地区分長WEB会議の開催（4/15）

※新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響によりWEB形式に変更

ウ 地区分職員への協力依頼

地区分区担当者WEB研修会の実施（4/18、21）

※5月に地区分区（本島内）を局長就任挨拶と合わせて訪問

エ 赤十字会員増強運動月間の実施

① 知事メッセージの発表による県民への赤十字運動への参加呼び掛け（5/2）

※同日赤十字会員増強運動月間にかかる活動資金第一号贈呈式開催

②地区分区活動資金募集出発式及び自治会（区長会）への説明会の実施

※新型コロナウイルス感染症感染対策を行い一部地区分区にて実施

③赤十字地域奉仕団（19団体）による募集活動（5月会員増強月間）

※新型コロナウイルス感染症感染対策を行い一部奉仕団にて実施

④県下市町村にパンフレット・ポスターを配布

⑤月間テレビCM（本社実施）、ラジオCM（県支部実施）の放送

⑥地区分区、関係機関での運動月間懸垂幕の掲示

⑦地区分区へ支部専用振込手数料免除用紙の活用依頼

- オ 広報活動の強化
 ラジオカーによる赤十字事業広報（5月中）
 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により「ふれあいフェスティバル」の代替として実施
 ラジオ放送にて実施（5/4血液センター、5/9日赤安謝福祉複合施設、5/16支部・病院）
- カ 赤十字寄付金付自動販売機の設置推進（98台、寄付金額 1,074,065円）

- （3）赤十字会員の表彰
- ア 全国赤十字大会への参加（5/19 東京明治神宮会館）
 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により事務局のみ参加
- イ 沖縄県赤十字有功会総会（7/19）
 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により文書審議による開催
- ウ 九州八県赤十字大会の開催（11/22 宮崎県シーガイアコンベンションセンター）
 社資功労 金色有功章2名、社長感謝状3名
- エ 沖縄県赤十字大会の開催（1/24 浦添市てだこホール）
 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響によりアトラクション中止
 社資功労の部
 社長感謝状38名、金色有功章56名、銀色有功章115名 計209名
 業務功労の部
 社長感謝状4名、金色有功章16名、
 銀色有功章6名、感謝状（10年）37名、
 感謝状（5年）43名 計106名
 合計 315名

2. 災害救護事業の強化

救護活動は赤十字活動の原点でもあることから、災害救護組織体制の整備と訓練による強化を図るとともに、義援金の受付と救護看護師の養成を行った。
 また、沖縄県からの要請を受け、県コロナウイルス感染症対策本部へ職員の派遣等の支援を行った。

- （1）日本赤十字社沖縄県支部救護班要員
- | | |
|--------------------------|-----|
| ア 災害対策本部要員（支部施設役職員） | 37人 |
| イ 血液供給要員（血液センター職員） | 16人 |
| ウ 特殊救護要員（薬剤師、助産師、介護福祉士等） | 28人 |

エ 救護班要員	30人
医 師 1名	
看 護 師 長 1名	
看 護 師 2名	
主 事 1名	
自動車操作員 1名	
	5個班編成 (沖縄赤十字病院) 計6名
オ 救護班補助要員	15人
カ こころのケア要員	74人
こころのケア指導者	6人
キ 日赤災害医療コーディネーター (医師)	2人
ク 日赤災害医療コーディネートスタッフ (医師以外)	8人

(2) 災害救護活動

ア 新型コロナウイルス感染症への対応

沖縄県からの要請により、県コロナウイルス感染症対策本部へ職員を派遣し、入院調整業務支援、医療コーディネーター補助業務、クラスター発生施設本部支援業務などの活動を実施した。

また、沖縄県と新型コロナウイルス感染症患者の搬送業務委託契約を締結し、患者搬送業務を支援した。

＜令和4年4月～令和5年3月の期間における実績＞

- ・本部派遣 延べ日数 15日 延べ派遣職員人数 18人
- ・患者搬送 延べ日数 6日(搬送回数計 10回) 延べ派遣職員人数 17人

(3) 臨時救護班の派遣

ア 神奈川県南方諸地域戦没者追悼式 (11/26)

沖縄赤十字病院職員 2名

イ NAHAマラソン (12/4)

日本赤十字社沖縄県支部職員 1名、沖縄赤十字病院職員 9名

(4) 救護研修・訓練の実施

ア 救護員研修

① 日赤沖縄県支部救護班研修 (7/14,8/4 支部主催)

※新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止

② 日赤沖縄県支部避難所運営研修 (3/3 支部主催) 参加 12名

③ 日赤災害医療コーディネート研修指導スタッフ研修会

(9/10～11 本社主催) 参加 1名

- ④ 全国赤十字救護班研修指導スタッフ研修会
(10/22～23 本社主催) 参加 1 名
- ⑤ こころのケア指導者養成研修会 (11/16～17 本社主催)
※参加予定職員が業務の都合により出席不可となつたため欠席
- ⑥ 日赤災害医療コーディネート研修会 (1/21～22 本社主催) 参加 1 名

イ 救護員訓練

- ① 日本赤十字社九州八県支部合同災害救護訓練 (11/3～11/4 福岡県)
日本赤十字社沖縄県支部職員 2 名
- ② 沖縄県総合防災訓練 (11/27 与那原町)
日本赤十字社沖縄県支部職員 3 名、沖縄赤十字病院職員 7 名
- ③ 美ら島レスキュー2022 (1/12 陸上自衛隊第15旅団主催訓練)
日本赤十字社沖縄県支部職員 1 名、沖縄赤十字病院職員 3 名
※一部図上訓練に変更となつたため、南部合同庁舎にて実施
- ④ 航空機事故対処訓練 (那覇空港)
 - ・図上訓練(1/23) 日本赤十字社沖縄県支部職員 1 名、沖縄赤十字病院職員 1 名
 - ・実働訓練(2/22) 日本赤十字社沖縄県支部職員 1 名、沖縄赤十字病院職員 4 名

(5) 救護資機材の保有状況

医療 セット	テント		担架	寝台	発電機	発光機	浄水器	衛星 電話
	エアテント	ドラッシャ						
3	2	1	10	10	1	4	1	6

ア 令和4年度配備

- ① 蓄電池 5台 (本社整備)

(6) 救援物資の備蓄状況 (支部倉庫、地区分区保管含む) 令和5年3月末現在

品 名	毛布	タオルケット	緊急セット	安眠セット	衣類セット	ブルーシート
数 量	3409	915	1446	250	183	212

ア 令和4年度救援物資の支給状況 (沖縄県内 火災・自然災害等の被災者へ配布)

品 名	毛布	タオルケット	緊急セット	安眠セット	衣類セット	ブルーシート
数 量	9	4	8	17	12	0

(7) 救護看護師の養成

ア 日本赤十字九州国際看護大学に推薦入学を委託、かつ当該学生に奨学金を貸与

- ① 令和4年度奨学金貸与 1名 (2年次)

※奨学金額: 年額1人 110万円 (沖縄赤十字病院と折半)

- ② 令和4年度推薦入学試験合格者 1名

イ 日本赤十字九州国際看護大学オープンキャンパスツアー (10/16)

参加者 県内の高校生 5名

(8) 義援金（国内）の受付状況（沖縄県支部）

受付名	受付期間	件数	金額（円）
平成30年7月豪雨災害義援金	R4年4月～R4年6月	1件	23,844
令和2年7月豪雨災害義援金	R4年4月～R4年9月	6件	90,000
令和4年7月大雨災害義援金	R4年8月～R4年10月	1件	46,700
令和4年8月3日からの大雨災害義援金	R4年8月～R5年3月	2件	74,000
令和4年台風第15号災害義援金	R4年9月～R4年12月	2件	72,600

(9) 赤十字防災ボランティアの養成

ア 防災ボランティア研修

- ① 赤十字防災ボランティア養成講習会（10/10 支部主催） 参加25名
- ② 赤十字防災ボランティアリーダー養成研修会（6/25～26 本社主催） 参加1名
- ③ 糸満市赤十字防災ボランティア研修会（11/30 糸満市主催） 参加1名
※熊本県支部職員、同支部防災ボランティアを講師として派遣
- ④ 防災ボランティアセンター運営者研修会（2/3 沖縄県社協主催） 参加1名

イ 関係機関との連携

- ① 「災害時における災害ボランティアセンター運営に関する関係機関連絡会」に参加し、情報共有、連携強化を図った。

(10) 地域における防災対応力の向上

ア 赤十字防災セミナーの実施

受講対象者・団体名	実施日	参加者数	実施内容
真和志第二民生委員児童委員協議会	8/16	18名	災害への備え
那覇市赤十字奉仕団	10/14	15名	災害への備え
南風原中学校	10/28	28名	DIG
地域包括支援センター小禄	1/18	5名	災害への備え
地域包括支援センター小禄	1/19	7名	災害への備え、まもるいのちひろめるぼうさい
安謝児童館	1/28	47名	DIG
赤十字職員	3/3	12名	HUG
北中城村赤十字奉仕団	3/6	25名	災害への備え
なか事務所グループ	3/15	38名	災害への備え
安謝児童館	3/18	30名	災害への備え、避難訓練
地域包括支援センター安里	3/22	20名	災害への備え、まもるいのちひろめるぼうさい

イ 防災教育事業指導者の養成

- ① 防災教育事業指導者養成研修会（9/24～25 支部主催）
参加者 17名（職員 5名、ボランティア 12名）
- ② 防災教育事業主任指導者研修（5/10,11/8 本社主催）
参加者 3名（職員 2名、ボランティア 1名）

3. 国際救援活動の推進

日本赤十字社では、世界各地で発生する紛争犠牲者及び災害被災者の支援のために、国際救援・開発協力要員の養成及び派遣を行っている。

今年度は、パレスチナ赤新月社医療支援事業へ、沖縄赤十字病院看護師の派遣を実施した。

また、海外での災害、紛争などの状況を県民へ広く周知し、救援金の募金活動などを実施した。12月に行われたNHK海外たすけあい街頭募金では、JRC加盟校、赤十字有功会、赤十字地域奉仕団ほか、多くの県民から協力を得られた。

（1）国際救援・開発協力要員の養成、派遣

ア パレスチナ赤新月社医療支援事業への職員派遣

派遣職員：沖縄赤十字病院 看護師 下地 美咲

派遣期間：令和5年2月1日から同年7月20日

派遣先：レバノン

職務内容：現地医療スタッフへ技術や知識の提供、支援

（2）救援金（海外）の受付状況（沖縄県支部）

ア 救援金（海外）

受付名	受付期間	件数	金額（円）
ウクライナ人道危機救援金	R4年4月～R5年3月	38件	22,192,036
2022年アフガニスタン地震救援金	R4年6月～R4年9月	3件	87,600
2022年パキスタン洪水救援金	R4年9月～R4年11月	2件	69,100
2023年トルコ・シリア地震救援金	R5年2月～R5年3月	23件	6,387,973

イ NHK海外たすけあいキャンペーン（12/1～25）

救援金県内受付状況 1,766,327円

4. 赤十字奉仕団の活動強化

赤十字奉仕団は、赤十字活動において重要な役割を担っていることから、赤十字概論等の各種研修を10奉仕団で実施し、奉仕団からの各種相談に隨時対応した。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、一部の事業を感染症対策徹底のうえ実施または延期・中止するなどの対応を行った。

- (1) 支部奉仕団委員会の開催 2回 (11/7、3/7)
※新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により第1回（7月）は中止
- (2) 地域赤十字奉仕団等の育成 24団体
地域奉仕団（19） 特殊奉仕団（4） 青年奉仕団（1）
※赤十字飛行隊沖縄支隊（本社直轄）
- (3) 地域奉仕団による奉仕活動
ア 赤十字病院での受付案内
※新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止
- イ 移動献血場所での受付案内
- ウ 年間活動計画の多くを中断せざるをえないなか、各団とも可能な範囲で感染予防策を講じて定例活動や役員会を行った。
- エ 愛の心もちつき会（沖縄中央育成園）
※新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止とし、JRC高校協議会等にてクリスマスプレゼント等を100セット作成して贈呈した。

5. 青少年赤十字（JRC）の拡充

青少年赤十字は、青少年が赤十字の「人道・博愛」の精神を理解し、日常生活の中での実践活動を通して、思いやりのある心豊かな青少年に成長することを目指して、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校の中に組織され活動しており、令和4年度は新たに1校が加盟校となった。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、一部の事業をWEB開催へ変更するなどの対応を行った。また、今年度は青少年赤十字創設100周年を迎えたことから、高校協議会で過去の写真をまとめフォトモザイク作品を制作する等、コロナ禍でもできる100周年関連活動を行い青少年赤十字の普及促進に努めた。

青少年赤十字加盟校の状況

	加盟校
保育園・幼稚園	5校
小学校	72校
中学校	69校
高校	50校
合計	196校

※新規加盟により小学校1校増

(1) 青少年赤十字賛助奉仕団による奉仕活動

ア 青少年赤十字加盟登録式への参加

4/11 東風平中学校
 4/13 阿嘉小中学校
 4/13 慶留間小中学校
 4/27 西崎中学校
 5/16 屋部小学校

(2) 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター

ア 夏季 (8/15~8/17 玉城青少年の家)

※新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止

イ 春季 (3/27 沖縄県総合福祉センター501~504教室 60名参加)

※新型コロナウイルス感染症予防対策として日帰り開催

(3) 沖縄県青少年赤十字オンラインセミナー (8/15 38名参加)

※中止となった夏季リーダーシップ・トレーニングセンターの代替行事

(4) 青少年赤十字創設100周年記念沖縄県青少年赤十字大会

(10/31 沖縄県総合福祉センター ゆいホール 107名参加)

※新型コロナウイルス感染症感染予防対策として参加者数を制限して実施

(5) 本社主催青少年赤十字創設 100 周年記念令和 4 年度国際交流事業 第 2 部

(11/5・6 Web開催 3名参加)

※第 2 部のみの参加

(6) 本社主催青少年赤十字スタディー・プログラム

(3/21 [第 1 部] Web 開催 3/25 [第 2 部] 本社集合形式 2名参加)

(7) 青少年赤十字防災教育 出前講座

『まもるいのち ひろめるぼうさい』 (小中高校生向け教材)

ア 那覇教育事務所 中堅教諭等資質向上研修会 (8/15 オンデマンド開催)

イ ガールスカウト沖縄県連盟第 10 団 (9/18)

ウ 曙小学校 3 年生 (2/9)

6. 講習普及事業の推進

交通事故、水難事故、高齢者を抱える家庭内での緊急時等に、身近にいる人が行える応急措置としての救助技術を修得してもらうことを目的とした各種講習会を開催した。

新型コロナウイルス感染症の対策として3密防止の徹底に配慮しながらも、救急法や水上安全法など、社会ニーズの高い資格が取得できる一般対象の講習を再開した。また、昨年に引き続き流行拡大期に継続して実施できるオンラインでの短期講習プログラムを実施した。

(1) 講習会実施状況

令和5年3月末現在

講習種別	実施回数 (回)	受講者数 (人)
救急法	基礎講習	21
	救急員養成講習	5
	短期講習	25
	合計	51
水上安全法	救助員養成講習Ⅰ	6
	救助員養成講習Ⅱ	1
	短期講習	2
	合計	9
健康生活支援講習	支援員養成講習	0
	災害時高齢者生活支援講習	0
	短期講習	0
	合計	0
幼児安全法	支援員養成講習	0
	短期講習	0
	合計	0
総合計		60
		1,483

(2) 講習指導員養成実績

赤十字幼児安全法指導員 10名

7. 職員の資質向上のための研修の充実

各階層の職員が、それぞれの果たす役割を理解するとともに、その役割を果たすためのスキルを身に付け、事業の円滑な遂行が行える人材の育成を目的として研修を実施している。令和4年度は、対面形式での研修を再開させ、職員同士のコミュニケーションの機会とすることことができた。

- (1) 支部施設合同中堅職員研修会の実施（対象：概ね3年以上勤務した職員）
(動画研修11/16～11/22、対面形式研修11/24 参加者24名)
※新型コロナウイルス感染症対策として、動画視聴による事前研修と対面形式での研修を併用しての研修を実施
- (2) 支部施設合同係長職員研修会の実施（対象：係長職職員）
(2/14 参加者34名)
- (3) 合同新規採用職員研修会の実施（対象：令和5年度新規採用職員等）
(3/28～29 参加者40名)

8. 赤十字各施設間の連携強化

支部・施設間、そして事業間の連携を通じた日本赤十字社としての「グループ力」を発揮し、各事業の質の向上や効率化を図るとともに、相乗効果によって実現できる新たな取組みを積極的に検討・展開していく。

- (1) 各施設に救護要員を配置しており、防災訓練については各施設救護要員を動員して参加し、互いの連携強化
- (2) 支部施設管理会議を定例開催し、各施設長が運営状況の確認、意見交換を行い、施設間の連携を強化（月に1回開催）
- (3) 支部施設総務課長連絡会議を定例開催し、情報共有を図り施設間の連携を強化
- (4) 支部施設合同で職員研修を開催し、各施設職員間の連携を強化
※開催実績については、前項参照

9. 有功会、評議員に関する取組み

(1) 有功会

沖縄県赤十字有功会は、日本赤十字社有功章等を受章された方々により、平成2年12月に結成された団体。赤十字思想の普及および事業の推進を目的とし、赤十字事業の支援活動を行っている。

沖縄県赤十字有功会役員数 24名（令和4年3月現在）

ア 役員会

1. 日 時 令和4年6月14日

2. 付議事項

第1号議案 令和3年度事業実績報告及び歳入歳出決算について

第2号議案 令和4年度事業計画及び歳入歳出予算（案）について

イ 総会

※新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により文書審議に変更

沖縄県赤十字有功会会則 第11条5に基づき、文書審議にて開催

ウ 主な活動

- ・日本赤十字社沖縄県支部への活動資金協力
- ・沖縄県青少年赤十字大会で記念品贈呈（10/31）
- ・NHK海外たすけあい街頭募金活動への参加（12/10）
- ・県内児童養護施設へ絵本贈呈（3/7）
- ・「愛の血液助け合い運動」月間の広報懸垂幕の贈呈

(2) 評議員会

日本赤十字社沖縄県支部の運営に関する重要事項を審議するための評議員会を以下のとおり実施した。第91回は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により対面式での開催を中止し、日本赤十字社支部規則第16条に基づき、書面にて審議を実施、評議員全員の賛意を得て議決。第92回は、第87回以来となる対面式での実施。議案は評議員全員の賛成を得て、原案の通り承認された。

評議員数 21名（令和5年3月現在）

ア 第91回評議員会

1. 日 時 令和4年6月15日～令和4年6月30日

2. 付議事項

第1号議案 令和3年度 支部事務局事業実績及び一般会計歳入歳出決算について

第2号議案 令和3年度 沖縄赤十字病院事業実績及び医療施設特別会計歳入歳出決算について

- 第3号議案 令和3年度 日赤安謝福祉複合施設事業実績及び社会福祉施設特別会計歳入歳出決算について
第4号議案 令和3年度 沖縄県赤十字血液センター事業実績について

イ 第92回評議員会

1. 日 時 令和5年2月7日
 2. 会 場 日本赤十字社沖縄県支部 3階会議室
 3. 参 加 者 評議員21名中 出席10名（代理出席含む）、委任状11名
 4. 付議事項
- 第1号議案 令和5年度 支部事務局事業計画及び一般会計歳入歳出予算（案）について
第2号議案 令和5年度 沖縄赤十字病院事業計画及び医療施設特別会計歳入歳出予算（案）について
第3号議案 令和5年度 日赤安謝福祉複合施設事業計画及び社会福祉施設特別会計歳入歳出予算（案）について
第4号議案 令和5年度 沖縄県赤十字血液センター事業計画について